

|                |                 |    |        |           |
|----------------|-----------------|----|--------|-----------|
| ○事業所名          | 放課後等デイサービス サガセル |    |        |           |
| ○保護者評価実施期間     | 令和7年9月1日        |    | ～      | 令和7年9月30日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)          | 24 | (回答者数) | 21        |
| ○従業者評価実施期間     | 令和7年9月1日        |    | ～      | 令和7年9月30日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)          | 6  | (回答者数) | 6         |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年10月14日      |    |        |           |

○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること                                                                                                                                                       | 工夫していることや意識的に行っている取組等                                                                                                                                               | さらに充実を図るための取組等                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 利用者主体のサービス提供：<br>利用者の意向や生活リズムを尊重した柔軟な支援ができています点が強みです。今後は、利用者の声をより反映したサービス改善や個別支援計画の精度向上が期待されます。                                                                                                  | 利用者の意向や生活リズムを丁寧にくみ取り、個々に合わせた柔軟な支援を意識して行っています。支援内容の改善や課題への対応については、職員間で迅速に情報共有を行い、MTにて即日検討する体制を整えています。<br>利用者の声を継続的に反映しながら、より満足度の高いサービス提供につなげるよう努めています。               | 今後も、利用者一人ひとりの思いや生活リズムを丁寧にくみ取りながら、よりきめ細やかな支援の実践を心がけていきます。職員間で日々の情報共有を密に行い、支援の方向性や関わり方を統一することで、より安心感のある支援を目指します。MTでは、利用者の変化や課題を具体的に共有し、建設的な意見交換を通して支援内容を見直す機会を大切にしています。また、利用者の声や日々の様子を振り返りながら、小さな改善を積み重ねることで支援の質を高めています。今後も、利用者が安心して過ごせる環境づくりと、満足度の向上に向けた取り組みを継続していきます。 |
| 2 | 実践的で参加意欲を高める内容：<br>実際の生活や就労に直結する体験的プログラムが充実しており、利用者の自立や社会参加への意欲を高めている点が強みです。今後は、子どもたちの意見や要望を積極的に取り入れながら、より実践的で学びの広がる機会を提供していくことが期待されます。                                                          | 子どもたちが飽きずに意欲的に参加できるよう、季節や興味に合わせた多様なプログラムを企画しています。既存のプログラムについても定期的に内容を見直し、活動のねらいや学びがより深まるよう工夫しています。また、子どもたちの意見や反応を参考にしながら、楽しさと学びが両立するプログラムづくりを意識しています。               | 今後も、子どもたちが自ら楽しみながら参加できるよう、日々の活動を通して興味や関心を丁寧にくみ取っていきます。職員同士で活動の様子や反応を共有し、より効果的なプログラム運営につなげていくことを意識しています。プログラム内容については、子どもたちの成長や季節の変化に合わせて柔軟に見直しを行い、充実した時間を提供できるよう努めます。活動を振り返る時間を設け、良かった点や改善点を話し合うことで、支援の質を継続的に高めています。今後も、子どもたち一人ひとりが達成感や喜びを感じられるプログラムづくりを目指して取り組んでいきます。 |
| 3 | ニーズをくみ取り柔軟かつ専門性の高い個別療育・SSTプログラム：<br>子ども一人ひとりの特性や発達段階を的確に捉え、柔軟に対応した個別療育やSSTプログラムを実施している点が強みです。職員の専門性を活かした支援により、子どもたちが安心して学び、社会性や自己表現力を育む環境が整っています。今後は、さらなる専門研修の充実や支援内容の体系化により、より効果的な支援の実現が期待されます。 | 子ども一人ひとりの課題や特性に合わせた支援を行うため、職員間で日々の様子を共有し、支援内容の統一を図っています。MTにおいては、それぞれの職員の意見を取り入れながら建設的な支援方法を話し合い、より効果的な支援方向を検討しています。また、意見交換を通じて職員の専門性を高め、チームとして一貫性のある療育を意識的に実践しています。 | 今後も、子ども一人ひとりの発達段階や特性に応じた支援が行えるよう、日々の記録や様子を職員間で丁寧に共有していきます。MTでは、子どもたちの変化や課題をもとに支援方法を見直し、より効果的な関わり方を検討する時間を大切にします。支援にあたる際は、職員それぞれの専門性を活かしながら、共通理解を持って一貫した対応を行うことを意識しています。日々の小さな気づきや成功体験を積み重ね、子どもたちの成長につながる支援の質を高めています。今後も、子どもたちが安心して自分らしさを発揮できる環境づくりを継続して進めていきます。       |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること                                                                                                                    | 事業所として考えている課題の要因等                                                                                                                                                           | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                                                                                               |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 職員間の連携・情報共有の面：<br>日々の支援内容や利用者の変化についての情報共有が、職員間で十分に行き届かない場面が見られることが課題です。支援方針の統一や引き継ぎの仕組みを見直すことで、より一貫性のある支援体制の構築が求められます。今後は、定期的な振り返りや記録方法の工夫により、共有精度の向上が期待されます。 | 職員それぞれの担当業務が異なるため、日々の情報共有のタイミングが取りづらいことが要因の一つと考えられます。また、口頭での報告が中心となり、記録や引き継ぎの方法が統一されていないことも影響しています。その結果、支援方針の共有にばらつきが生じ、対応に一貫性を持たせることが難しい場面が見られます。                          | 改善に向けては、まず記録や引き継ぎの方法を決めて、職員全員が同じやり方で情報を残せるようにすることが大切です。次に、定期的に話し合いの時間を設け、利用者の様子や支援内容をみんなで確認できるようにします。また、日案、計画書や申し送りノートなどを活用し、日々の情報を分かりやすく伝え合う工夫が必要です。              |
| 2 | 保護者や関係機関との連携の面：<br>家庭や学校との情報共有・連携が十分に取れないことがあり、支援の一貫性に課題が残っています。子どもの成長を支えるためには、保護者や関係機関とより密に連携し、意見交換を行うことが必要です。定期的な面談や報告の工夫を通じて、協働的な支援体制を強化することが期待されます。       | 保護者や学校との情報共有が口頭や連絡帳に偏ることがあり、伝達内容に差が生じることが課題の要因の一つと考えられます。また、家庭や学校の都合により、直接面談の機会が限られることも円滑な連携を妨げる要素となっています。今後は、SNSなどのツールを積極的に活用して情報を文章として記録・共有し、連携内容の一貫性と信頼性を高めていくことが求められます。 | 改善に向けては、保護者や学校との連絡方法を見直し、誰もが分かりやすく情報を共有できる仕組みを整えることが大切です。定期的な報告や連絡のタイミングを決め、支援の内容を共通理解できるようにします。また、電話や書面、連絡帳など複数の方法を組み合わせ、無理のない形でやり取りを続ける工夫が必要です。                  |
| 3 | 支援内容の個別化・一貫性の面：<br>個々の特性や変化に応じた支援を行う中で、対応方法が職員によってやや異なる場合があります。支援方針や記録の共有をさらに徹底し、チーム全体で一貫した支援を行うことが課題です。今後は、支援内容の確認や見直しを定期的に行い、統一性のある対応が期待されます。               | 子ども一人ひとりの特性や状況に応じて柔軟に対応する中で、職員ごとの判断や支援方法に差が生じることが要因の一つと考えられます。また、支援の意図や対応経過が十分に記録・共有されないまま引き継がれる場合があることも影響しています。その結果、職員間で支援方針の認識にずれが生じ、一貫した対応を保ちにくい場面が見られます。                | 改善に向けては、支援方針や対応方法を職員全員で確認し、共通の理解を持つための話し合いを定期的に行うことが大切です。支援内容の記録や共有方法を統一し、誰が対応しても同じ方針で支援できる体制を整える必要があります。また、子どもの変化や課題をこまめに振り返り、チーム全体で情報を共有しながら支援の質を高めていく工夫が求められます。 |